

事例報告

雑司が谷における地域活動 ——雑司が谷七福神を中心に

渡邊 隆男

私は、雑司が谷が大好きです。今は南池袋1丁目に住んでいますが、武蔵野デパートが西武百貨店に社名を変更した1949年（昭和24）から、雑司が谷7丁目（西武鉄道本社ビルが現在建築中）にあった社宅に住んでいました。社宅といっても当時は掘っ立て小屋程度で、まわりは芋畑やトウモロコシ畑しかありませんでした。それから7年後、結婚して他のまちに移ったのですが、わずか1か月でその移転先が火災に遭ってしまい、雑司が谷6丁目に戻ってきました。

ですから、このまちには自分の人生があります。ここが終の棲家にならざるを得なかったというのが私の人生です。大好きな雑司が谷の中でも、今日は雑司が谷七福神についてお話ししたいと思います。

雑司が谷七福神は昔からあるものではありません。これをつくる案が出たのは2007年です。地下鉄第13号線が「副都心線」と呼ばれるようになり、雑司が谷駅という駅名が発表された年のことです。副都心線は東武東上線や西武池袋線に直通するため、これまで池袋駅で乗り換えていた利用客が新宿、渋谷方面に流れ、池袋地域は商業的に地盤沈下してしまうのではないかという懸念が広がりました。電車の利用客は、副都心線が開通すれば便利になるし、山手線の混雑緩和にもなると喜んでいましたが、当時の百貨店や商店会は深刻に受け止めていました。

ですが、2007年1月、西口の勤労福祉会館で第4地区区政連絡会の新年会が開かれたとき、当時環境大臣だった小池百合子さんがこんなことを言ってくれました。

「皆さん、何も心配することはありません。雑司が谷にはこんなに宝物があるじゃないですか。それを生かせば、まちは活性化していくでしょう」

2008年1月、まちの活性化のために、雑司が谷のある檀家の方の提案で雑司が谷七福神をつくることになりました。鬼子母神堂の境内で集会を開き、発起人会の発足が決まりました。しかし、同年6月に副都心線が開通すると、新宿、渋谷とともに、池袋の利用客も増加していることがわかりました。そのため、雑司が谷七福神の発起人会はいつの間にか立ち消え状態になってしまったのです。

2008年12月、町会連合会50周年記念の集まりで、雑司が谷七福神の話が再び持ち上がり、発起人である檀家の方に相談して再始動することになりました。

はじめは、その檀家の方がいる寺院の毘沙門天と、鬼子母神堂の大黒天だけでした。あと五つで七福神ですが、その五つをまとめるのに1年かかりました。

七福神の巡拝の経路を地図にして、検討をくり返し、法明寺の近江正典住職に相談しながら、現在の七福神に決まったのが2009年の末でした。その年のうちに豊島区の高野之夫区長に報告すると賛成していただき、さらに1年かけて、雑司が谷七福神を完成させたのです。創設祝賀会は2010年12月、サンシャイン60で開きました。

2011年の初詣から雑司が谷七福神巡りがはじまりましたが、3月11日に東日本大震災が起きました。日本中が祭りや年中行事を自粛し、私たちも「七福神をつくってよかったのか」と自問自答しました。ですが、半年ほど経った秋には、震災復興の動きも相まって、七福神のお参りなども大々的に取り上げられるようになり、安堵しました。

2012年に、お参りに来てくれる人に恩返しをしたいと思います。池袋東口に、仙台で100年続いているという酒蔵の店舗があるのですが、そこを通じて酒粕を50kg買って参拝者3000人に無料で配り、それが2年間続きました。雑司が谷七福神の参拝者数は、マップの配布数をみると初年度は約3万人、その後、毎年増えており、おそらく今年は8万人を超えていると思います。遠からず10万人にも届くのではないかと期待しています。

雑司が谷は、社寺が21か所、霊園・墓地が大小6か所、計27か所に及ぶ寺町です。また2016年には雑司が谷の鬼子母神堂が自由学園明日館に続いて国の重要文化財に指定されました。雑司が谷には国の重要文化財が二つ、都の文化財が六つ、天然記念物が一つ、区の文化財が二つ、区の無形文化財が一つと、計12か所の文化財があります。まさに雑司が谷は宝の山です。そしてこれらに関わる町会が16、商店会が8、特別団体が7——計31団体がわずか1㎢の中にあります。

そんな雑司が谷の中でも、雑司ヶ谷霊園は、全国から墓参者が集まる特殊な地域だと思います。ここの環境を整備するために、設立14年にもなる地元団体「緑のこみちの会」に相談をしました。御嶽坂から高速道路の下まで約400mの区道があり、その脇に石垣と鉄板の塀があります。その間に15~20cmぐらいの鉢形の場所があるので、そこにヒガンバナを植えることにしました。

鉄板の塀は真夏には非常に高温になるので、ヒガンバナが咲くか心配で、現在区道の約1割、約40mで実証実験を行っています。9月中旬か下旬にその鑑賞会をする予定です。そこで皆さんのご意見を伺い、ご賛同いただければ、そして物理的に可能であれば、ここにヒガンバナの群生帯を植えたいと思います。これがうまくいけば、来年のお彼岸には、地元はもちろん全国からの墓参者に楽しんでいただけたと思います。

もう一つ、モミジの植樹を考えています。明治通りの利用車の混雑緩和のため、駅前からバイパスをつくる計画が今から50年前にはじまりました。半世紀前は、なぜそんなものが必要なのかという声上がり、計画反対と書かれたベニヤ板が都電の窓から見えるような時代でした。このたび、それがようやく完成します。その千登世橋あたりからはじまる

バイパス沿いにモミジを植えたらどうかという提案なのです。東京でも桜の名所は各所にありますが、モミジの名所は寺町にふさわしいのではないのでしょうか。

4月頃には法明寺の参道の桜が楽しめます。それに加えて、5月はモミジの新緑、7月はヒガンバナ、そして秋には紅葉が楽しめるでしょう。皆様のご賛同をいただきながら進めていきたいと思っています。

(わたなべ・たかお 雑司が谷未来遺産推進協議会会長)